

大学院 2011 年度版 シラバス記入フォーム

タイトル行込み 38 行(1 行全角 38 文字、最大 1440 文字)以内。

いずれの項目も具体的に記載をお願いします。

お手数ですが、データでの送付にご協力願います。

授業科目名： アカデミックリテラシー

プログラムマスタ： 岡村 光浩 担当教員名： 岡村 光浩・鈴木 明

開講希望： 前期 ・ 後期 曜日： 水 時限： 2

英語表記： Academic Literacy

授業目的・方針、到達目標（200 文字程度で） ※授業概要含む。

演習形式で、論文執筆（日本語・英語）の基礎とプレゼンテーションの作法を学ぶことを通じて、研究者として求められる発信力を身につける。必要な情報を正しく引証しつつ、その成果を output するための作法を学び、自らの研究の意義を日本語・英語で表現できるアカデミック・スキルを養いたい。

授業内容（各回 30 文字程度で、15 回全てをご記入ください）

- 1： (岡村)オリエンテーション(授業の概要、自己紹介と受講者スキルの現状把握、参考文献紹介等)
- 2： (岡村)論文執筆の基礎① 学術論文に期待（要求）されること／研究計画作成のヒント
- 3： (岡村)論文執筆の基礎② 前回続き／各自の研究課題「プチ発表」を素材にディスカッション
- 4： (岡村)英文アカデミック・ライティング基礎① パラグラフ・ライティングのおさらい
- 5： <振替>研究科発表会（前期 M2）に原則終日（自分の専門外も含む）参加し発表を聞くこと。
- 6： (岡村)研究科発表会（前期 M2）レジュメ並びに当日の発表を素材としてディスカッション
- 7： (岡村)英文アカデミック・ライティング基礎② 英語による学術論文とは何か
- 8： (岡村)英文アカデミック・ライティング基礎③ 引証の作法／研究テーマ英文 Abstract 作成
- 9： (岡村)英文アカデミック・ライティング基礎④ 英文 Abstract 草稿を素材にディスカッション
- 10： (鈴木)デザイン・プレゼンテーション概念と目的① Apple, RCA 等の事例を用いたレクチャー
- 11： (鈴木)デザイン・プレゼンテーション概念と目的②
- 12： (鈴木)デザイン・プレゼンテーション演習 各自課題の発表（プレゼンテーション）
- 13： <特別講師予定>アカデミック・ライティング／プレゼンテーション指導
- 14： <特別講師予定>アカデミック・ライティング／プレゼンテーション指導
- 15： <特別講師予定>アカデミック・ライティング／プレゼンテーション指導

履修の注意（専門分野による履修制限等）

本講義（特に岡村担当分）は「論文執筆（作品制作ではない）」を想定していることに留意のこと。作品のコンセプトシート等への指導もできる限り行うが、（将来商業デザイナー／アーティストには必ず求められるであろう）「デザイナー／アーティストでない者が読んで（聞いて）理解できるか」という視点からの助言が主なることを了解の上受講されたい。（以上岡村より）

評価方法（試験、レポート提出、課題提出など）※院は定期試験なし。

提出課題やプレゼンテーションの状況並びに完成度・出席状況並びに参加姿勢等により総合的に評価する。

使用テキスト、参考テキスト

吉田知子『アカデミックライティング入門』（慶應義塾大学出版会, 1998 年）ほか、各担当講師より指示する。

各自準備物（受講の際、準備させる物があれば具体的に）

英語辞書(紙推奨):学研『アンカーコズミカ英和』大修館『ジーニアス英和』三省堂『ウィズダム和英』等
実習費等(必要な場合)

その他（その他注意事項、受講生へのメッセージなど）

1. 課題として自分の研究課題やポートフォリオを日本語・英語で説明（Abstract 作成）（岡村）／プレゼンテーション（鈴木）することになるので、そのつもりで考えておくこと。
2. 特別講師招聘等の都合により講義日程が変更になる場合がある。その他詳細は担当講師より指示する。